

【和歌山県議会日印交流促進に関する議員の会】活動報告

会長 新島 雄

四年前、日印交流促進に関する議員の会【略称・インド議連】が発足しました。

2013年和歌山県はインド・マハラシュトラ州と覚書を締結し、2014年から常駐職員を送り込み事務所を構えています。

数年前、国際課の職員さんから「インド」頑張っていますので応援して下さい。と声をかけられました。その言葉が頭の中に残り、世界のインドとして、また人口世界一になるであろうと言われていた親日国のインド、この関係を議会も応援しよう、勉強しよう、2020年1月4名の議員で、初めてインド・マハラシュトラ州を訪れました。（2023年4月人口世界一位）

その結果、我々は非常に重要な関係である事を認識し、帰国後、参加した議員4名で、趣意書・会則・役員案などを検討し、会派全員の合意の下、「和歌山県議会日印交流に関する議員の会」の発足へと歩んでいきました。

そして4年間、駐日インド大使や総領事との面談、インド人材の受入れや、来訪するインド関係者などと交流を深めてまいりました。

2024年1月14日（日）二度目のインド訪問に出発です。今回は、議長を含め議員10名、職員が2名の人数です。午前8時に関西空港に集合し、シンガポール経由でインド・ムンバイ【旧称・ボンベイ】に向かいます。時差は日本に遅れる事3時間30分、覚悟の長距離移動の始まりです。

やっとの思いでムンバイ空港到着。現地時間午後11時30分であり、ホテルへ向かい旅装を溶き、明日の準備をして、入浴などを済ませベッドに入ったのが午前2時30分を過ぎていました。なかなか寝付けない中、朝5時過ぎには目が覚め、時差ボケを感じていました。（眠）

初日の午前中は、有名な場所を訪問する予定でしたが、車の混雑で時間が読めず、昼前の面談に遅れてはと超有名な「インド門」の訪問だけです。大変な交通量ですが、これがインドでは普通の交通量です。（前回経験済み）

***** インドでは、歯を磨くのもミネラルウォーターで !!!*****



最初に面談するのは、マハラシュトラ州下院議会議長ラフル・ナーベカル氏です。でも忙しいのか？時間には来ません。この人とは、昨年の4月に県庁の正庁にて下院議員25名と共に会い、話をしたら覚えていてくれました。お礼を申し上げ、お土産の交換などを済ませ、今後の交流の在り方など、意見交換をする事が出来ました。



次に会う人は、マハラシュトラ州でも和歌山県を応援してくれている人であり、大変協力的な州政府ギリッシュ・マハジャン観光大臣です。

私たちとの面会が決まっていたのですが、急遽、インド政府からの呼び出しでデリーへ行くことになったそうです。しかし「大切なお客様ですぐに行けない」と言って私たちとの時間を取ってくれ、軽食のお付き合いまでしてくれました。

次の日にプネに移動する事を伝え、もっとムンバイに居よう言われました。残念ですが…と伝え、ガッカリした顔をされていました。

***** ホテルでの出来事、ドライヤーがなく困った人。お湯が出ない人。*****

歯フラスのチューブがない人。珍道中の始まり、始まりです。

ムンバイ二日目の夕食は、和歌山との関係の深い方を我々が招待しての夕食会です。インドの夕食は遅く、夕刻の8時が始まりで、9時、10時も普通にあるようです。何をするにも、朝はゆっくり、夜もゆっくりのようです。

招待者の中には、マハラシュトラ州副首相の政策担当者の人とか、ハルダス儀典局職員、日印協会の会長さんなども参加してくれました。明日は、マハラシュトラ州副首相との面談があります。なかなか会えない人物らしく、州政府の実質的な責任者のようです。

今日も長い一日でしたが、食事会も無事終わり、ホテルに帰れば、今日の片づけに明日の出発準備、やっぱり12時を過ぎての入浴でした。

***** インド料理は、基本カレーです。朝・昼・晩カレーです。*****

パンや細長いお米も出てきますが、カレーです。

日本でも有名な「ナン」は出てきません。

訪問三日目、州政府副首相に会いに行きます。

和歌山を大切に思ってくれているマハラシュトラ州の重要人物への面会です。

インドとの関係で、重要な事があります。和歌山県高野町の高野山大学に、2015年9月インド憲法の父でマハラシュトラ州の英雄であるビームラーオ・アンベードカル博士の銅像が設置されています。

両県州交流の象徴となっている等、和歌山県に対し多くの功績を残しておられるのがデヴェンドラ・ファドナビス副首相です。

2023年12月、功績が讃えられ、高野山大学名誉博士号の受章となりました。

後での話ですが、デリーの日本大使館を訪れた際に大使館高官から、なぜ?? 副首相に会えたのか? と驚きと、不思議がられました。今までの和歌山県(国際課)の対応が評価されたのだと、嬉しい気分になったのを思い出しています。

面談場所に到着すると玄関には、カメラマンや警備員、報道の人も居るようです。立派な建物です。素晴らしい配慮をして頂いている事を全員が実感しています。大きな控室に通され、少ししてから会議室に通されます。

私と濱口議長の二人で副首相を囲む形で前の席に着き、両サイドに議員が分かれて座り、我々の名刺を副首相に分かり易く席順の通り並べて待ちます。入ってくると、いきなりプレゼントの交換です。いつもインドでは、プレゼントの最初はショールのような布を全員に肩から掛けてくれます。どのような意味があるのか? 解りませんが今回も5枚ほど頂きました。

また私と議長には花束も用意してくれていました。残念ながら持って帰れないのでホテルに置いてきました。

私たちが用意したプレゼントは、すべて「メイド in 和歌山」です。橋本地方のパイル織物、勝浦のマグロの缶詰、海南の棕櫚製品、湯浅の醤油等々、和歌山産品の売り込みもしてまいりました。



副首相は、昼食も用意をしてくれていました。大きなテーブルを全員で囲み、給仕の人もいます。アルコールの用意もあります。インド・ワインが美味しいと、言っている議員もいます。それにしても、大変な歓迎です。

副首相を中心に、今後の交流や、マハラシュトラ州と和歌山県の関係強化し、より良い関係にする為の、話し合いが十分でき、中身の濃い時間になりました。

******* 次は、ジェトロ・ムンバイです。日本語での説明です。*******

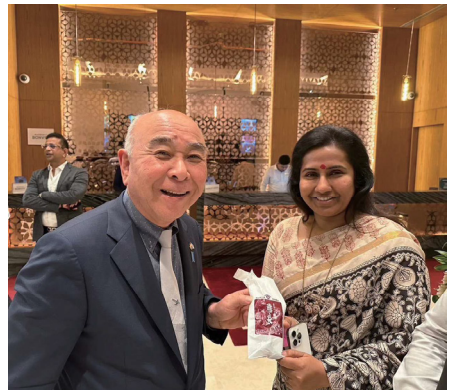
次は、JETRO・Mumbai の松永所長さんからマハラシュトラ州の概要と、ムンバイ・プネ等の詳細説明を受け、今、副首相にお会いしてきた事を伝え、大変驚かれていました。

マハラシュトラ州の概要・・・人口約1億2,638万人以上、面積約30万8,000km²、言語はヒンディー語・マラティー語・英語、ムンバイ日本人会約600人、プネ日本人会約200人、日系企業232社。

松永所長さんとは四年前にもお会いしていて、私を含め三名がお会いしている事を話すと、就任早々の事で十分な対応が出来なかったと、苦笑いをしていました。

夕刻より、インド8大都市の一つ「プネ」に向かいます。二度目のプネは、自動車などの一大産業集積地です。バスで約4時間半。休憩所では甘い「チャイ」を飲み、ホッと一息して再び走ります。今晚の夕食は少し早めの7時頃に途中休憩のレストランです。日印協会のカレ会長さんが地元の人を集めていて、約20名程度の夕食会になりました。中には議員さんもおられました。

夕食会が終わり、再びバスが走ります。そんなこんなで時間が過ぎていきますが、なかなかプネに着きません。アルコールの入った議員は、寝ていても揺れるのと、酔いどで辛いバス移動のようです。プネ到着は午後11時を過ぎています。今回も、なかなかの強行軍です。



******* 海外に行く時、私は日本食を持って行きませんが、*******

**今回、1～2名の議員さんが、カップ麺や
お菓子類、おつまみ等を持って行きました。**

プネでの初日はカジュアルな服装で出発します。紀美野町にある「りら創造芸術高校」の校長先生はじめ、生徒28名に引率3名がマハラシュトラ州を訪問し、同じ高校生と交流するのを視察しました。【訪問校・GG インターナショナルスクール】

大ホールで熊野古道を表現したミュージカルや寸劇を、地元の高校生は、インド色の強い踊りや音楽などを披露、最後には全員が「We are the World♪」を歌いフィナーレを飾りました。大変内容のある交流を堪能しました。

途中、私たちも舞台に上がり、生徒さんたちの前で、インドの学校関係者とプレゼント交換をいたしました。

高校生のエネルギーな行動と、キラキラした目の輝き、明るい声を聞いていると、明日への夢や希望が一杯詰まった交流である事を実感しました。中には涙を流している生徒さんもいて、大きな財産になると確信しました。





学校に戻ると、校庭のガンジー像への献花が待っていました。代表して首に花輪をかけ手を合わせました。

午後は日本企業の訪問と、夕刻にはブネ市役所のコミッショナーへの表敬訪問です。訪問する日本企業は「クボタ」です。関西の企業ですので馴染があります。

クボタは農機具のメーカーです。丁寧な説明を受け、販売している機材を見せて頂きました。ある議員が「日本より安い !!」と言います。私はどの程度か判りませんが、随分安いと社員さんが言っていました。日本では先頭を走っているのですが、インドでは後発の為、苦勞をしているとの事です。

お土産に、マグロの缶詰、梅干し等と和歌山の食材を渡すと、大変喜んでくれました。大きな工場ですが、日本人は7名だけとの事、インドの人も日本語で対応する方がおられました。「KUBOTA」のキャブを戴き、市役所へと向かいます。

ブネ市役所到着が少し遅くなりましたが、歓迎をしていただき、すぐさま、プレゼント交換です。ショールの様な布を肩から掛けてもらい、インドと日本の違いや、和歌山の説明など、楽しい時間を過ごしました。

コミッショナーは、市の実権を握っている人で、市長はお飾りだと聞かされていました。どうも No.2 が実権を持っているのが通常ようです。熱心に要望はないか ?! と我々に聞いてきます。交通量の多さの中、先を争い少しの隙間に割り込んでくる車の運転が怖い事や、トイレの小便器の位置が高くて背の低い日本人には利用しづらい等、素直に感じた事を話し合いました。(笑)



面談が終わり、ブネの歓迎会に向かいます。今日がブネ最後の晚餐です。

日程も半ばを過ぎ疲れの出る頃ですが、お腹も減ってきました。いつものカレー料理の会食に行きます。有名なお店のようで、外には待っている人が並んでいます。どこの国でも有名店は並ぶのですネエ。

満席の中を入っていくと、歓迎会を開催してくれる人たちが、食事を始めています。私たちが遅くなった訳ではないのですが、お酒も出ていますし、料理も出ています。盛り上がっている中へ合流します。

メンバーの中に、和歌山県知事表彰を受けた元州政府の要人マリック氏も来てくれていたのが驚きでした。

最後に儀式だと言って、私たち全員にターバンを巻き歓迎?!をしてくれました。恥ずかしながら、私たちはターバンをしたままホテルに帰りました。(汗)

明日の朝は午前4時30分チェックアウト5時出発でデリーへ飛行機で向かいます。残るは世界遺産と、日本大使館訪問です。

******* マハラシュトラ州は気温30度、夏の服装でOK!!*******

後半に行くデリーは?? タージ・マハルは??

朝早くの出発です。やはり寝過ごした人がいました。いつも時間前には来ている議員なのにと、心配して部屋に電話を入れ、慌てふためき玄関に降りてきて、全員無事空港へ到着しました。これから行くデリーは寒いとの事?! 心配です。

ブネの空港で出発を待っていた時の事です。職員さんがスマホを熱心に見ているので、何を見ているのか ?!

と目を凝らしているとキッチリと眠っているのには驚きました。これぐらいでないとインドでは務まらないのでしょう。その姿を見て「ホッ!!」と心が休まりました。

午前10時デリーに到着すると、夏服の私たちに試練が待ち受けていました。なな何と!! 外気温が7度です。「寒い!! 寒い!!」を連発しながらバスに乗り込みます。

ムンバイやプネでは30度前後で過ごし易かったのですが、皆さんの冬服はトランクの中です。普通で考えると、バスにヒーターが付いているから大丈夫と思うでしょうが、そんな考えは甘い!! インドでは通用しません。ヒーターは見事に付いていません。その上、窓から隙間風が入ってきます。震えながら約3時間半、世界遺産タージ・マハルのあるアグラに向かいます。

途中、休憩所では暖かいチャイを飲み、トランクから着るものを引っ張り出し、寒さと戦います。

タージ・マハルは思っていた以上に寒い場所でした。離れた所にバ



スを置き、電気カート（有料）に乗り換えて行きますが、持ち込める物が限られています。スマホとお金程度です。入口でボディチェックを受け、入口を通過します。大変厳しい条件です。

東京ドーム何個分?? という程の広さです。裏側には川が流れています。その川の向こう岸に王様のお墓を作り、お后のお墓と繋ぐ構想だったと説明があり、その事業が財政難で出来なくなったそうです。それが実現していれば、今以上に寒い場所になっていたと思います。

アグラという街は、タージ・マハルに依存している様に感じます。随分と経済活動が活発です。土産物屋さん、ホテルに、入場料やら、カート乗車代に、駐車場代もそうです。世界中から観光客を集めています。

す。でも寒いです。

明日はアグラにあるもう一つの世界遺産アグラ城壁へ行きます。今晚は、インド最後の晚餐です。初めて私たちだけの夕食会です。

***** 仲間だけの夕食会。肩の力が抜けてイイものですネ。♪*****

早く始めて、早く終わりました。♪

最後の日、午前中アグラ城壁を見学に行きますが、さあ出発という時に、一人の議員が忘れ物に気づき、パスポートとお金を持って帰ってきたので、全員が大笑いをしました。前日は、寝坊で、今日は忘れ物、疲れが溜まって来たのでしょう。

出発をしますが、タージ・マハルを見ているので、たいした事はないだろうと考えていましたが、思っている以上に寒い城壁で、海外の観光客も沢山来ていました。入場料は必要ですが、普通に見学ができます。

アグラ城壁見学の後は、バスでデリーにある日本大使館に向かいます。高速道路は割と空いています。安心して景色を見る事が出来ますが、気温は全然上がりません。大使館を訪問する為、全員夏のスーツです。（寒）

******* インド最終日に見つけた !! ヘビ使いの大道芸、コフスは動かない !!*******

日本大使館は、一等地にあります。建物に入るのに二ヶ所のチェックを通ります。入場許可書を頂き建物内へ、ゆったりとした間取りで、あちこちに日本らしさが演出されています。土地はインド政府からの贈り物です。大切な国々に、インド政府が場所を指定して配分したのだと聞きました。

大使館においても、和歌山産の品々は、大変好評をいただきました。難しい話をしている、食べ物や、プレゼントになると顔がほころびます。

ここでも、在インド日本大使館の参事官から和歌山県のインドに対する取組の素晴らしさをお褒め頂きました。また、一等書記官からは、インド人材の受入れや、観光客の訪問時の受け入れ態勢等、お話があり、我々も文化・経済交流に加え、若者の交流を進めて欲しいとか、和歌山県産品の販売など、沢山のお願ひも致しました。

最後の訪問を無事務め、準備してくれたホテルで着替えと荷物整理を致します。その後、深夜便での帰国になりますが、皆さんの顔が少しほころんでいる様子にも感じます。



******* デリーでも、交通量や運転の激しさは同じです。*******

5車線の道路は、8車線に利用します。

先を争い、割り込み自由です。道路の車線が消えたままです。

最後のフライトに向け空港に向かいます。強行軍のインド訪問がもうすぐ終わります。帰りも同じく、シンガポールでの乗り継ぎで関西空港に到着したのが 1 月 20 日の午後 3 時 30 分を過ぎていました。入国手続きを済ませ、税関を通り、再び無事に関西空港に全員が元気に帰ってきました。集合し、顔を見合わせ、笑顔で自宅までの無事を確認しあい解散しました。

二度目のインド訪問でしたが、前回とは違った驚きも多く、学ぶ事も多かったと皆さん感じてくれました。今回の訪問で、マハラシュトラ州における和歌山県の状況を再確認できたことは、大変素晴らしい事で、今後の交流に自信が持てました。

大きな事故もなく、体調を壊す事もなく、全員が元気で帰国する事は最大の喜びです。一週間、同じ行動をし、同じホテルで過ごし、協力しながら、初期の目的を達成した事に心から感謝をしています。

より一層、和歌山県とマハラシュトラ州が経済的、文化的に結びつきが深まり、すべてにおいてお互いがより発展していく事に少しでも役立ちたいと考えています。

インドに興味のある方は、我々にご一報ください。お手伝いが出来ると考えています。今後とも、ご支援、ご協力をお願い申し上げ、活動報告とさせていただきます。

最後のご報告です。総務省が地方自治体を表彰する制度があり、この度、和歌山県とインド・マハラシュトラ州との交流が評価され、総務大臣表彰の受章が決定しました。🙏